

<別紙> 情報提供様式

① 事例名	
授業時数の点検、個別懇談会の期間延長、会議・研修の精選	
② 学校名	
大津市立壱田小学校	連絡先077-572-0032
③ 取組分野(複数選択可)	
<input checked="" type="checkbox"/> 勤務時間の意識づけに関する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 教育課程等（授業時数の点検、日課表の見直し、カリキュラム、教科担任制、行事の精選等）に関する取組	
④ 直面していた課題(取組前の様子)	
児童の在校時間が長いことや、会議や研修が多いことにより、教職員がやりたい業務に取り組む時間を十分に確保することができない。	
⑤ 在校等時間の縮減に向けた具体の取組内容	
(1)授業時数の点検 学期はじめや学期末に全校5校時日課の日を設けた。 取組のポイント 全校5校時日課の設定等は通年での実施が難しいため、時期や期間を絞って実施した。	
(2)個別懇談会の期間延長 昨年度4日間だった個別懇談会を5日間に延長した。個別懇談会の期間中は全校4校時日課(給食後下校)とした。 取組のポイント 期間を延長したことで得たゆとりは、懇談内容をより充実させることに生かすようにした。	
(3)会議・研修の精選 会議や研修の内容を見直し、職員会議の回数を減らした。 学年ごとに働き方改革担当を置いた。 取組のポイント 小さな会議でも、はじめに目的や協議時間を確認することで、教職員が時間を意識できるようにした。	
⑥ 取組の成果	
取組について教職員にアンケートを行った。 <全校5校時日課の設定について> ・74%の教職員が実施について肯定的な回答をした。 ・63%の教職員が「早く退勤できるようになった」と回答した。 ・5校時日課の放課後を58%の教職員が教材研究や授業準備に活用できたと回答した。また、47%の教職員が学年会議や協議の時間に生かすことができたという回答をした。 ・記述回答からは、5校時日課の設定により児童や教職員の負担が軽減されるだけでなく、教職員がやりたい業務を行えることで、授業改善に繋がっていることがうかがえた。また、放課後にゆとりが生まれたことにより、学年会議の時間が確保できるなど、教職員の対話の時間が増えたことがわかった。 <個別懇談会の期間延長や会議・研修の精選について> ・半数以上の教職員が肯定的な回答をした。	
成果のポイント 働き方改革を進めるには、働きやすさを追求するだけでなく、教職員がやりたい業務ができる時間を生み出すことや、対話の時間を生み出すことが大切であるということを教職員が気づくことができた。	

## ⑦ 参考となる写真や資料を添付

### 働き方改革 アンケート集約

整田小学校では、学期末や学期はじめの5校時日課を増やしました。  
教職員を対象に行った振り返りアンケートの集約です（回答38名）。

#### ○学期はじめや、学期おわり等に5校時日課を設定したことについて

とてもよい	81%
どちらかというといよい	16%
どちらかというといよくない	0%
よくない	3%

#### ○5校時日課を設定した日の放課後の時間に、他の日課と比べて特に有効に活用できた業務 (複数回答可)

- ・回答が多かった順に、

教材研究・授業準備	(全体の58%が時間を有効に活用できたと回答)
学年会議	(同、47%)
学級事務	(同、47%)
校務分掌	(同、26%)
生徒指導・教育相談	(同、11%)
- ・いつもより早く運動できた(全体の63%が早く運動できたと回答)

#### ○5校時日課のメリット・デメリット(記述)

##### 主なもの

- ・子どもたちにとっても学期はじめをゆったりとスタートすることができた。
- ・子どもの様子を息入りに共有できた。
- ・学年の教員で話をする時間が増えた。
- ・学年でじっくりと今後のことを協議することで、役割分担もはっきりとできた。
- ・教材・行事の準備、授業研究にあてる時間が増えた。
- ・授業準備が十分にできることで、授業中の子どもの姿も変わった。
- ・学級事務を勤務時間内に終えることができた。
- ・教室環境を整えること(整理整頓・掃除)ができた。
- ・生徒指導上の対応も勤務時間内に終わることが多くなった。
- ・保健室の来室児童(軽微な怪我等)の対応も軽減できた。
- ・出前授業等、関係者との打ち合わせ時間も十分に確保できた。
  
- ・教職員も気持ちの面で余裕ができ、ストレスの改善につながっているように思う。
- ・他の職員の運動が早かったので、自分も帰ろうという意識をもつことができた。
- ・ダラダラ仕事をするのはなくて、早く運動するという雰囲気(意識)づくりが大切。
- ・読書をする時間をつくることができた。
- ・通院する時間が確保できた。
- ・早日に家族と過ごす時間が増えた。
- ・睡眠時間が増えた。
- ・園に子どもを迎えにいやすかった。
  
- ・授業時数が減るので、学習計画をしっかりと立てる必要がある。
- ・放課後に会議や研修を入れる場合も計画的にすずめたい。
- ・学習内容も精選していく必要がある。
- ・係活動等の時間の確保が難しくなった。
- ・学期末の5校時は授業に終われ、しんどかった。
- ・学校による差があり、近隣校との調整が必要。
- ・低学年は日頃の日課とあまり変わらない。
- ・特別教室や入り授業の割り当てが6時間目だと調整に苦労した。
- ・特支学級では、下学年の下校後、上学年のだけでさせたいことができないということがある。
- ・学期末の余剰時間は学ぶ力を向上させる等、教師のやりたいことが実現できる時間だった。

#### ○今年度の取り組みでいいなと思うもの(複数回答可)

##### 回答が多かった順に

5校時日課の設定	(全体の74%がよかった、よいと回答)
個別懇談会の期間の延長	(同、55%)
定時運動日の徹底	(同、55%)
会議の削減、研修の精選	(同、55%)
会議、打ち合わせ時の提案時間の意識改革	(同、50%)

#### ○今後に向けたアイデア

- ・4校時日課(給食後下校)の検討。
- ・40分授業の検討。
- ・7月・9月など、暑い日の昼休みの削減。
- ・週2回の全校5校時日課。
- ・登校時刻の見直し。
- ・職員打ち合わせの時間を短くするため、校支援の掲示板をさらに活用する。
- ・定時運動日と合わせて、PTAの会議等、学校が遅くまで開いている日の周知。
- ・会議・打ち合わせの削減。時間を意識した提案、協議。

- ・業務内容の見直しや削減。
- ・ICT 活用による仕事の削減。
- ・2学期制を含めた、通知票「あゆみ」の再検討。評価の仕方の見直し。
- ・朝の会にゆとりがほしい。
- ・チャイムの時間の見直し。
- ・リフレッシュの仕方について交流。
- ・障壁の抜の共有。

5校時日課の設定は、子どもたちにとってゆとりが生まれたことや、教職員が教材研究や授業の準備に時間をかけることができたこと、教職員同士の対話の時間が生まれたこと等、一定の成果が見られたようです。低学年や特別支援学級の状況、6校時の割り当て等も踏まえて、4校時日課や40分授業等、他の案の活用も考えいきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

アンケート担当